

第六期 第三十四回 np.広告学校 講義録

【小霜クラス 最終講義】

◆日時

2014年3月24日

◆出席者

で?、食い丸、おにぎり、ピロリ

小学生、世界の野糞、ホへ〜、センター、垢ブリ、安倍さん

生徒10名（女性4名男性6名）

+小霜・付き人（np.）・インターン

小霜：ここに、docomoのスマホがあります。

（小霜本人のスマホを見せる）

これの、価値は、何だろうか。

じゃあここでじゃんけんして順番決めて。

（円の端と端の、世界の野糞・付き人がじゃんけんをする）

世界の野糞：勝った方からね。

じゃんけん、ほい。

（世界の野糞が勝つ）

世界の野糞：あ、、、。なんで勝った方にしたんだろ、、、。

一同：(笑)

小霜：まあそんなにダラダラと喋らなくてもいいので、一言で。

世界の野糞：スマホの価値ですか。

小霜：というか、こう思っている。って。

ピロリ：docomoの？

センター：これ？この機種？

小霜：これに限らずだけどね。ここにあるよね、スマホが。この価値は何だろう。

世界の野糞：スマホの価値は、えーと、いつでも場所を選ばず、誰かとやりとりができる。

ホヘ～：えっと、docomo だと思うので、au・Softbank より地方に行っても通信がちゃんとできる。

で？：登山家に愛用者が多いくらい、山でも電波が通じる。

食い丸：私も docomo を使ってるんですけど、画面が他の会社のものよりも割れにくい。

おにぎり：人とすぐに連絡をとれること。

インターン：誰でも持ってること。

小霜：は？

インターン：誰でも持ってる、みんなが持ってる。

小霜：誰でも持ってるのが価値ってということ？

インターン：はい。

ピロリ：どこでも、仕事のチェックとかができる。

センター：距離的に遠くても情報が得られる。

小学生：docomo っていうブランドの安心感。

安倍さん：iPhone ではないので、逆にマイノリティー感を感じることができる。

付き人：Windows 使いの人からしたら、手のひらサイズで一番使いやすい。

小霜：えっとー、僕が期待した答えを言った人は、今のところ一人もいない。

僕が期待した答え、あの一、だってさ、一年間のおさらいの意味で質問するねって言ったじゃない。

小霜：わかる？

一年間のおさらいの意味で、このスマホっていうものの価値はなんだって聞いているんだよ。

今君たちの言った答えっていうのはさ、この一年間何もここで学ばなくても答えられる答えだよ。一年間学んだ上で、答えるとしたらどう答える？わかる人いない？

小霜：物事の価値は、その人とその物との関係で決まる。

僕が期待した答えは、「人によって、価値は変わる」てこと。

君たちは、こいつの価値がね、すぐにどこでも仕事ができるとかいう風に言ったけどさ、それって誰にとっての価値を言ってるの？おかしいじゃん。自分にとっての価値を俺は問うた？問うてないよね？

物事の価値っていうのは、一体何が決めるのか、それは、その人とその物との関係で決まるのよ。煙草吸わない人にとって灰皿っていうのは無価値。そうだよ。これはね、電話機だっていう風に思ったら、喋れない人にとっては全く無価値だよ。でも、メール機だって思ったら喋れない人にも価値あるかもしれない。じゃない？

じゃあこれは、うちの幼稚園の末娘にとって、価値あるかどうか、どう？

ホへ〜：ゲーム機として。

小霜：そう。そのとおり。ゲーム機だと思ったら、幼稚園児にだって価値がある。電話機だと思ったら価値がない。メール機だと思っても価値がない。でもゲーム機だと思ったら価値を持つわけ。幼稚園児にとって。わかる？

小霜：うちの幼稚園児は YouTube いじるの好きだから、YouTube ビューワースタ、ってしてもそれは価値を持つよね。今うちの娘が iPad でね、しょっちゅう YouTube 見てるけど、物凄い価値を持つわけよ。彼女からすると、YouTube ビューワースタとして、YouTube とゲーム以外の機能は使わないんだけど、iPad がないと本当もう生きていけないくらい、価値を持つわけ。

広告とは誰かと何かの新しい関係性を作る仕事

で、広告っていうのはさ、誰かと何かの新しい関係性を作る仕事なわけ。つまり価値ってことね。新しい誰かと新しい何かの関係性を作れば、新しい価値ができるっていうこと。

うちの娘はね、幼稚園行く前から iPad をいじくって YouTube を見てるんだけど、英語のムービーとかをしょっちゅう見てるから、それで英語を覚えちゃったんだよ。すごい発音が良いらしいの、人に言わせると。すごい良い発音をすると。なんか英語らしきものを喋るんだけど、完璧に英語になってるって言うのね。そしたらさ、タブレットで YouTube を使ってね、幼児向けの英会話学習システムができるかもしれないよね。あるいはそういう風にタブレットを使いましょうって言ったら、タブレットの広告になるじゃない、で広告になると同時にタブレットの新しい価値も作ってることになるじゃない。

小霜：広告は新しい、物と人との関係性をつくること。そこには1つアイデアが必要。

仕事で色んなコピーライターの若い人とやってて思うんだけどね、なんとなくでコピー書いてるんだよね。気分で。コピーっぽい感じ。スマホとかけて、何となく、みたいなさ。

つまり価値を作っていないだよ。これをどう表現するか、今あるものをどう解説するかっていうことで、コピー書いてるんだよね。

なんとなく広告っぽいなーとか、コピーっぽいなーっていう風にはなるんだけど、それは本当の意味での広告とは違うと思うわけ。

で、僕がずっと君らに教えてきたのは何かっていうと、まず、新しい物と人との関係性を作る。そこで一つアイデアが必要であるっていうこと。

それがずっと言ってきたストラテジーっていう、まずその理想とか目標とかを高く持とうよ、っていうこと。

赤ちゃんの頃からテレビ見るじゃない、でもさ、テレビをつけっぱなしにしているても何も生まれないよね。やっぱり英語で YouTube 見てる方がネイティブに近い発音ができるようになるんだよね。そういうことが習慣になったら、日本のグローバル化にとって役に立つかもしれないじゃない。そういう新しいアイデアとか新しい目標をバーンとかかけられるということが必要だと思うんだよね。

で、その目標に対して、どういう風な表現で広告つくってあげれば実現できるのか、みんながそれいいね、って思ってもらえたりやってくれたりするのかっていうことじゃない。

スマホとかけて何となく、的なコピーライターっていうのは何の目標も理想もなく、ただ空気だけ、気分だけで作ってるので。

小霜：家を建てる時にね、住む家なのか、それともレストランを一階でやるのか、それともオフィス兼用にするのか、そういうものを決めないとさ、建てられるわけじゃない。

今みんながいる僕の家は、一階をオフィスにしようと思ったので、僕の書斎があって、打ち合わせスペースがあって、まあ書庫があって、っていう風にしてそういう目標で設計してるわけであって。で一階はオフィスで、二階三階は家族が住むっていう、そういうコンセプトがまずあって、それを実現するために、じゃあ具体的な設計どうすんのよ、っていうことになるわけだね。

まず素晴らしいアイデアで目標をたてる。その後どう表現したら目標が達成するのか考える。

最初の目標なくコピー書くっていうのはさ、その一、なんとなく建物たてるっていう風なことであって、建ててから、これ何に使うの？っていう。なんかオフィスっぽい感じがいいかな〜と思ってオフィス作っちゃいましたー、と、でも後からそこに住もうと思って住めないよね。そういう話になっちゃうわけで。ありえないわけだよ、現実世界では。広告もそうで、まず目標をたてる。

素晴らしいアイデアだね。素晴らしい目標をたてて。じゃあそれに対して、どう表現するのか、どうしたら目標達成するのか、二段階で考えるっていうことをやってほしい。

一番最初の講義で僕がいったのは、ターゲット、ターゲットインサイトの重要さっていうのを言ったんだけど、やっぱり、みんなまだそこが、身についてない気がしたわけよ。だって、これ(スマホ)の価値何だと思う？って言ったら、主観で言ったでしょ。

プロは、主観なんてないのよ。まず、誰についての価値なのか、を思わなきゃいけない。常にターゲットの目線でものごとを見ないといけない。自分なんかないのだと。まあぜひそのことをね、忘れないでほしいな。

小霜：じゃあここから先は、そこにある食べ物でもつまみながら、一年間の質疑応答を。

(テーブルへ移動、食事の準備)

小霜：ここから先は僕が喋るというよりも、みんなで。

僕の入院騒ぎとかありましたが、一年間お疲れさまでした。

受講生全員：ありがとうございました！

(乾杯)

小霜：じゃあここからはね、みんな用意してきてる「この事について議論を聞かせたい」というのを誰か提言して、それについてみんなで議論する。それを聞きながら、みんながどれくらい成長したかな、というのを僕は見てる。

一同：(笑)

センター：すごくつらいぞ。

小霜：じゃあ、えーと、どうしようかな、まず自主的に聞きたい人。

世界の野糞：じゃあいいですか？提言。

小霜：あの一、あそうだ、じゃあね、提言して これはあんまり議論してもしょうがないな、っていう時は俺が却下って言うから。

一同：うわー！

で? : 最初もそういうことありましたね。(笑)

【世界の野糞の議論提案】なぜ歩きスマホはなくなるのか。

世界の野糞 : じゃあ言います。えー、なぜ歩きスマホはなくなるのか。

一同 : あー。

(小霜から ok サイン)

一同 : (笑)

世界の野糞 : というのも、最近携帯各社が、歩きスマホは危険です、やめましょう、っていう風に言っているんだけど、自分も含めみんなやっちゃっているかなと。でそれはなぜかっていうのを議論したい。

小霜 : AC がやってるよね CM ね。

世界の野糞 : ええ。

ホへ〜 : ガラケーの時ってやってませんでした? 僕やってなかったんですけど、やりました? ガラケーの時。

センター : 歩きながらはやってなかった気がする。

で? : しててもチェックしてすぐしまっちゃう。

ピロリ : スマホになってから メッセージが結構色んなところから入るじゃないですか。なので、今日来るときのことなんですけど、誰が遅刻するかとかチェックしなきゃチェックしなきゃって。

付き人 : ガラケーの時より情報がリアルタイムに入ってくるアプリとかが多いですよ。LINE とか Twitter とか。

おにぎり : 歩きながらでもサクサク動くから、使いやすいから。

付き人 : ボタンじゃないからっていう。

小学生：検索してからする行動が増えた気がして。食べログとか、地図とか、そういう検索してからする行動が多くなった。地図見ながら行ったりとか。ご飯とか美味しいところ行ったりだとか。それもひとつあると思う。

安倍さん：今日このお家まで歩きスマホしてきました。

世界の野糞：それは、その時に必要だから使ってしまうということ？

安倍さん：ですね。

で？：電波も、昔はあんまり繋がらなかったじゃないですか、それが繋がるようになったから余計線路での転落事故が増えてるんじゃないかな、と思っている。

付き人：ただ単に歩きスマホする人はいないですか？この中に。ただ単に。暇潰しというか。

ホへ～：僕パズドラにハマってた時は、何度かパズドラしながら歩いちゃってて。その時ぶつかって、ぶつかることって実際あるんだなと思いつつ、でもしばらくはやってた気がした。連絡チェック以外にもただ単純にゲームとかも結構みんなしてる。

ピロリ：それが一番危なそうですね、連絡チェックとかよりもずーっとやってるしね。見っぱなしでしょ。

おにぎり：たしかに終わりが無い。なんか、スマホのアプリとかって、始まり開始みたいな立ち上げることはあるけど、終わりのボタンとかってないから、自分で終わらせないとずっとやっちゃう。かな。

安倍さん：ぶつかるってことがあるんだってことがすごいわかってるけど、自分は絶対視野が広いからぶつからないと思ってる。

で多分将来ぶつかるんでしょけど、今のところぶつかってないから新宿駅とかもTwitterとかしてても避けてる。

食い丸：私昨日ぶつかりそうになって、本当に急いで、どうしようもなく地図とか見ながら歩いててそれに没頭してたら、目の前に自転車でめっちゃスピードだしてたお兄さんがいて、チエツてやられました。

世界の野糞：なんかさ、考えたときに 歩きスマホの状況って三つくらいあると思って、

一つはナビみたいに、必要だからやっているっていうこと。

もう一つは、例えば電車でやってて乗り換えの時にそのままやってしまう、ということ。その時の行為を終えるのが惜しいとか、やだなと思っているから引き続きやってしまうこと。

三つめが、歩いている時でさえ暇潰しでやってしまうっていう。

自分の中の経験では三つあるなと思っていて、その二つめと三つめが起きてしまう やってしまう理由ってなんだろう。

頭までは、ぶつかったら怪我するとかさ、携帯が落ちこちるかもかれないとかさ、自分がどこかに突っ込んだりじゃうかもしれないとか、そういうのがあるものの、でもやってしまう。

その理由ってなんだろう？

センター：ガラケー時代は少なかったっていう前提ならば、どこが違うかっていうのが、Twitter をしたくなる気持ちってあるので、リアルタイムな情報がガラケーの時に比べて多くて、なんか三秒後とかでも見るとまた新しい情報があるから。ゲームは違うなって思ったけど。

ホへ～：個人的には、そんなにリアルタイムな情報を求めてるかっていうと僕は違うような気がしていて、単純にスマホがさわりたいっていうのはまずあって、動き気持ちいいし、可愛いし。

ガラケーの時は携帯を扱ってるっていう意識だったけど、スマホはそんな意識せずに、なんだろう、スマホをいじろうとかじゃなくて、もう普通の行動としてさわってて、何も見ずにスマホずっと見てるだけだと意味がないから、とりあえずアプリ開こうみたいな。

だったら Twitter 入ってるし Twitter やろうみたいな。なんか Twitter 見たいからっていうより、スマホをさわりたいくて結果 Twitter 開くんじゃないかみたいな。

おにぎり：私はなんか初めて歩く道ではやらない気がする。

一同：あー！

おにぎり：毎日おんなじ道を歩くような生活をしてるから、なんか歩き慣れてるし、何がどこにあるかわかるし、だからスマホ見ちゃうんですよ。

世界の野糞：それは僕もあって、毎朝通勤中に見る通勤路で結構歩きスマホ率が高いなと思って。

センター：刺激が欲しいんですかね。とりあえず刺激が欲しくていじっちゃう。ゲームにせよ何にせよ。

付き人：ホへ～がさっき言ったのが結構そうなんじゃないかという気がする。

センター：それでも、小霜さんが一回目で言ったことだからな、ちょっと違う結論を出したいよね。

ホへ～：ああ、まあそうよね。一回目言ってたね。

付き人：そうなんだ。

センター：一年間成長ないみたいになっちゃう。

一同：(笑)

世界の野糞：例えば運転中って、今警察に見つかるにつかまっちゃう状況にあるんだけど、なんとなく、運転中のながら携帯は警察が見てる見てないに関わらず、やめとこーって僕は思うんですね。でも歩きスマホは、法規制されたら別だけどただ単に危ないからやめようって言われても、ついつい僕やっちゃうだろうなって思って。

で？：たしかに車は事故ったらやっぱり自分も痛い思いするっていうのが頭にあるからだと思う。

付き人：死んじゃう可能性も結構ありますからね。歩きスマホで死ぬっていうのは、確率としては車のながらスマホよりは低いから。

世界の野糞：ちなみに調べてたら、やっぱり一年間で十何件死亡事故が起きてて、気づかずに踏み切りの中入っちゃってて、ひかれるみたいな。

一同：え――――

で？：それってやっぱあれですか？イヤホンとかしてる？

世界の野糞：いや、そこまでは書いてない。

世界の野糞：そういう事例を知ったらどう？それでもやる？

ホへ～：でも十何件だったら大丈夫でしょって思っちゃいますね。その中に自分は入らないでしょ、って思っちゃいます。

センター：なんかでもそうですね、自分の家から最寄り駅とかは結構やっちゃいますねやっぱ、見知らぬとこだとしないのかな。

で? : なんか見知らぬところって、刺激が周りにありすぎて、道わかんないし暇じゃないじゃないですか。でも知ってるところって同じ景色だから暇じゃないですか、そこかなって。退屈な時間を絶対作りたくないっていうのがあるのかなって。

センター : あー、一瞬たりとも?

で? : そう、一瞬たりともみたいな。 てちょっと思います。

小学生 : 何もしてない時間より、スマホいじってる方がなんか、時間の使い方が有意義。とってしまう。

一同 : あー。

付き人 : 何もしないよりは。

安倍さん : みなさんはトイレにスマホ持ち込みますか?

付き人 : 持ち込みます。

おにぎり、ピロリ、インターン : えー！

ホへ〜 : 持ち込まないかなー。

世界の野糞 : えー、なの?

センター : えっじゃあ持ち込まない派が少数派ですか?

安倍さん : 持ち込まない人。

(挙手する。持ち込む : 持ち込まない が、 約 6 : 4)

おにぎり : 持ち込むんですか?

世界の野糞 : それなに、軽蔑の眼差しなの?

おにぎり、ピロリ、インターン : いや、汚いと思っちゃう。

世界の野糞 : え?

ピロリ : 汚くないですか?

持ち込む側：？

おにぎり：なんで持ってくるんですか？

インターン：いじくったままトイレに入るってことですか？

で？：えっそういうこと？

世界の野糞：いや、今議題がずれてるから。

安倍さん：あっ、なんで今言ったかっていうと、常に情報を得たりコミュニケーションしてないと落ち着かない体質になってるんだとしたら、歩きスマホをしている人の気持ちってというのは、中毒っていうとあれだけど、こう、情報量の流れ込み具合に慣れてるといっか。もし、そういう人が増えてるんだしたら、トイレの中に持ってくる人も多んじゃないかなって。

付き人：スマホ中毒みたいな？

安倍さん：中毒というもあれだけど。スマホだけじゃなくて、こう、情報摂取。悪い言い方じゃないように言いたいんですけど。

センター：中毒だと、ないと うわっない！ ってるけど、スマホってそんなじゃないですよ、なきやないでいられますん？

付き人：うわーととはならないけどソワソワはするかな。

センター：一秒でも無駄にしたいくない感は僕の中では。その、大したこともないくせに結構いじるのは僕は結構それでピンと来た気がするんですけど。Twitterとかどうせ見るくせに、駅から自宅までに見ちゃって、家帰ってからこれをしなくて済む、と思ってやって、結局家帰ってからもそれするんですけど。

で？：なんだろ、効率化？みたいな。

ホへ～：歩いてるだけの時間がもはや、それ生産的じゃない、みたいな発言する人多くなってきた気がして。

一同：(笑)

世界の野糞：そんな人いる？

ホへ～：いない？SFCで結構、うわ俺非生産的な時間過ごした～とか言わん？

ピロリ：何？スマホをしてると？

ホへ～：いやーただただスタバとかでダラーと喋ってたり、ただご飯食べてるだけとか、ポーっと過ごしてると、うわー生産的じゃなかったー、みたいなこと言う人って増えたのか、僕が出会いはじめたのかよくわからないですけど。

ピロリ：スマホやってると生産的ななの？

ホへ～：いや、スマホやってるから生産的だとは限らないけど、その発言が出るってことは非生産的か生産的かっていう判断を常にしようとしてて、

で？：自分の行動に対して？

ホへ～：自分の行動とかも含めて。

で？：それって、メリットがないとその人と付き合わないに近いような気がするけど。

ホへ～：それはどうなんだろ、わからないけど、時間に対して今何かを産み出した、産み出してない、とか、自分に何か新しい情報を仕入れたのか、とかって結構判断してる気がして、ただ歩いてるだけっていうのが多分自分が何かを能動的に行動してないのが不安で、今非生産的だ、っていう潜在的な何かあって、ちょっとそれを補おうと思うのか、あ今能動的にスマホを出してる、スマホで何か情報を仕入れようとしている生産的だ、少なくとも非生産的じゃない！みたいな、ていうのは若者というか大学生あるあるかわからないですけど、ある気がしますね。

センター：わかる気がする。

小霜：いや、大学生に限らず、俺もあるよ。

ホへ～：あ、ありますか！

小霜：例えばさ、休みの日、一日中寝てるっていうのは、すごく不安になる。

で？：気付いたら夕方、みたいな。

小霜：うん。あの、何かしなきゃって思うの、休みの日でも。

それが漫画読むでも本読むでも小説読むでも、録画したドラマ見るでもいいんだけど、何かやると、生産的な気分になれる。本当に非生産的っていうのは何もしないっていうことだよ。ベッドの上で一日中寝てれば良い、休みだから、っていう考えもあるかもしれないけど、どんどん不安になってきちゃう。なんかそういう時代性みたいなものが、あるのかなっていう気がする。

食い丸：それってクリエイティブの人だからですか？一般人の人も？

小霜：クリエイティブの仕事をするようになってからそういう体質になったっていうことはないと思う、元々そういう体質だったのかなと思うんだけど、今彼の話聞いて、自分に限らず若い人も含めて、そういう時代性というか、そんなことがあるのかなっていう気がした。

センター：それ感じたこと一昨日くらいにあるんですけど、グッドモーニングカフェっていうところがあって、なんか誕生日会やってるメンバーがいたんですけど、誕生日会の目的が、お祝いするじゃなくて、そのお祝いしたケーキを持って写真を撮るみたいな。その写真を残したっていうその前提がないとみんな、とりあえず旅行とか行っても写真撮って残さないとみたいな、残すためには一時間でも二時間でも待つ光景見て、なんか、何も無いが今不安になるんだなって。そのチームはチェキに入れる乾電池がなくて、乾電池を買うために一時間半くらい待ってたんですよ、ケーキをいっさい食わずに。

で?：チェキのためっていうこと？

センター：はい。でも若干その気持ち僕もわかるんですけど、せっかくだったら、写真撮って残さないと、みたいな。意味がないじゃんとまではいなくても。

ピロリ：写真を撮らないとそのひとときがなかったことみたいになるのかな。

で?：たしかにそうですね。証拠がないじゃないけど。

ピロリ：それはすごいな。

センター：それは非生産的、それこそ何にも生産してない、っていうのがあるのかな。

で?：たしかに。

ホへ〜：いつからですかね。その生産的かどうかを自分から考え、なんかすごい常に考えようとしてるのは、時代だとしたら、SNS ですかね？安直な発想ですが。

センター：写真が撮れるっていう身近に。

おにぎり：でも電車の中で新聞読むのも時間を無駄にしたくないから、

ホへ～：ああそっか、昔からあるのか。

センター：昔は新聞とか本でしかなかったのが、なんだろ、それを上次元って言っちゃおかしいですけど、簡単にできるからみんながやるようになったっていう。

おにぎり：それが歩きながらできるようになったから、なんですかね？

で？：新聞見ながらね、歩けないからね。

ホへ～：90年代くらいの、スチャダラパーってラッパーの歌にも「ヒマ」っていう曲があるんですけど、なんでみんなそんなに暇が嫌いなの？っていう曲なんですよ。

センター：出典どっからきてんだよ(笑)

ホへ～：今日聴いてきたんだけど、スチャダラパーにハマってて最近、もうほんとずっと古いんですけど、暇って言われるのがみんな嫌いだね、っていう曲で、でもそう考えると、その曲が生まれるくらい昔90年代くらいの時も、暇は悪だ、みたいな雰囲気があったのかな。

センター：大学生ですら暇って言われるのが嫌ですもんね、みんな。あれそうじゃない？僕ずっと思ってたんですけど。

ホへ～：うん。

安倍さん：逆に暇アピールも最近、逆に多くなってきてる。

センター：あー、就活中だけど俺暇だぜみたいな。

おにぎり：余裕アピール。

安倍さん：ちょっとあの、電車の話に戻ると。今、情報っていっぱいあるじゃないですか。スマホ持っている人がいて、その人が受け取れる情報ってすごく限られていて、さらにその人は出来るだけ多くの情報を取りたいと思うし、その情報ってほとんど無限にあるから。その生産性の話と、ちょっと近いのかもしれないけど。情報を取りたい欲求というか。

センター：食べ物と違って情報って、取っても取ってもお腹一杯にならないみたいな。前は情報が少なかったけど、今は情報が多いから、取っても取っても終わりが無い。無限の欲望の中で。

で？：なんか、情報をいっぱい取っても、自分にとって価値があるかないかも結構関係していると思っていて。自分にいらぬ情報も取っちゃうから、量はどうしても多くなっちゃうというか。ちょうど昨日ツイッターで、そういう記事を読んでいて。ブルーノスの編集長の方が、OB訪問に来た学生が「雑誌はコスバが悪い」と言っていたらしくて。

お金を生んでもいないのに、払った価値に対してパフォーマンスが悪いから買わなくなってるって言って。それは、偶然の出会いとかを自分から切り捨てていって、自分の欲しい情報に直接たどり着きたいという欲があるんじゃないか、って話してた。多分その、生産性にやたら拘りすぎているのは、そういうのも一部あるのかなあと思います。

小霜：ひとつの仮説なんだけど。俺、高校まで大阪でさ。土曜日、昼まで学校があって、帰ってくると必ずテレビで吉本新喜劇をやってるわけよ。そこでやってるのは、お約束のギャグの世界なんだよね。その芸人は必ず自分のお約束のギャグを持っていて、必ずそれをやるわけ。舞台があって、ストーリーは色々あるんだけども。

例えば、池野めだかっていう方がいてね。ケンカふっかけて、逆にボコスカやられてるんだけども「今日はこのくらいにしたる」って言うギャグがあるのよ。必ずこれをやるわけ。何年も、それしかやらない。他の芸人もそうで、同じネタを何度も何度もやりたがるっていうね。それが今じゃ、「一発芸人」に変わってるじゃない。これは何かなあって考えたときに、やっぱり「バブル」じゃないかなあ、って気がするわけ。

昔はね、変わらないものを観て、みんな安心してたんじゃないかなと思うのよ。ずっとこの日常が続けば良いなあ、って。ギャグを観て安心してたんじゃないかなあって。でも今は、変わらないことへの不安が大きいんじゃないかな。まだ同じことやってるのか、って。どんどん変わっていきたいと思っていて、だから芸人も消費されていくんじゃないかな。

バブルが終わって、失われた10年というのがあって。日本はヘコんだ、と。だからそのヘコんだぶんを取り返さなきゃいけないんだ、自分を新しくしていけないとダメなんだあ、というね。そういうのがね、俺らの世代もそうだし、それがどんどん大学生とか若い世代に浸透していったんじゃないかなあ、と思うのよ。

さっきのカメラの話でいうと、俺はしょっちゅう海外へ行ってたけど、記録がないわけ。カメラを持って行く、っていうのが俺の中になくてね。見て、そのときの印象があれば良いだろう、という具合にね。今は、持って行くよ。やっぱ、残そうとするよね。

さっきの生産的・非生産的とは違うかもしれないけど、効率的とかなのかなあ。残した方が、効率が良いついていう。昔はね、忘れたらまた行けば良いじゃないかぐらいだったというかね（笑）そんな非効率的なことを考えていたけども、今は非効率的なことに不安を感じると思うんだよね。

スマホの話に戻ると、講義の一番最初の皆でモヤモヤを解消しようという回のあるときに、操作したときのヌルヌルとした感触が気持ち良くて、タバコの代替品になってるんじゃないか、という話をしたと思うんだけど。

やっぱり快感がないものは、流行らないよね。快感がなければ、歩きスマホなんかやるわけがない。ついついやるのは、気持ち良いからだよ、絶対。

じゃあ、その気持ち良さの正体って何なんだ、って掘っていくっていうのが必要でさ。その正体が何かは分からないんだけど、生産的ってことかもしれないよね。何もしないでただ歩いているだけ、っていうのが嫌なのかもしれない。俺は時々、歩くときのルートを変えたりしてたわけ。ちょっとルートを変えると、新しい刺激があるから、スマホをいじろうとは思わないよね。まあ、ちょっとしたことで新しい刺激が入るっていうのは、生産的なんだよね。何も刺激がないルートを歩いているより、スマホを触って刺激を得る方が生産的っていうことが、本質なのかもしれないね。もちろん正解は分からないんだけど。

センター：非効率だけでやっちゃうことって、今は何なんですかね。効率ばかり求めているのが今だとして、じゃあ非効率なことは何もやらないかっていうと違う気がして。

世界の野糞：合コンだね（笑）

で？：今、思いました（笑）

小霜：え、合コンって非効率？（笑）

世界の野糞：非効率じゃないですか？ある意味、効率的？

ホへ〜：でも、生産的です。

世界の野糞：ああ、街コンって効率の極地だよね。

安倍さん：前提として、何で合コンは非効率なんですか？

世界の野糞：その話題、いっちゃう？（笑）

センター：でも確かに、最近は「学生の合コン離れ」とか言いますよね。

世界の野糞：合コン、行く？

センター：ボクは、まだ一回もないです。

世界の野糞：いや、君の話を聞いてるわけじゃない（笑）周りもない？

センター：周りもないです（笑）

世界の野糞：世代的な話なのかな。ビールを飲まなくなった、くらいの話なのかな。

センター：そんなくらいに近いと思います。もちろん周りには、いるとも思いますけど。

ピロリ：ホへ～行ってるでしょ？

ホへ～：ボク、行ってないです。行ったことがないです。

ピロリ、で？：ウツソ～（笑）

ホへ～：行かなくても良いんで（笑）

おにぎり：これ、どうやって仕切れれば良いんだろう（笑）

ホへ～：さっき、少しだけ出たんですけど、ボクは「若者の～離れ」っていうのが嫌いなんですよ。

例えば「若者の車離れ」っていう表現があるじゃないですか。確かに、車を買わなくなったかもしれないけど、周りの友達を見ていると、どこかに旅行に行くときは皆でレンタカーに乗って行きたいんですよ。所有することは求めてないけど、車に乗る楽しさは知ってるし、車があれば楽しいってことも知っていて。別に若者が車から離れているかと言うと、違う気がして。

さっき出た「若者の合コン離れ」ってのも、女の子に出会いたいっていう欲求は変わってなくてですね。パッと見たときは、車を持たなくなったとか、合コンをしなくなったとかあるかもしれないけど。元々、合コンをめっちゃしてた人たちや、車を買っていた人たちが得ていた「女の子に出会う楽しさ」とか、「車に乗る楽しさ」とかは、ボクらも求めている。

本当に、「車離れ」をしているのか、女の子との出会いから離れているのか。そういう「若者の～離れ」ってやつの多くに当てはまる気がして、納得いかないなあ、って思うんですよ。

そういうのを名付ける人が、もっと若者をちゃんと見たほうが良いんじゃないかなって、個人的に思っていて。そこらへんをボク以外の若者や、ボクより上の人はどう見てるのか、ちょっと聞きたいなって思います。

センター：なんで嫌かって言うと、言われるとムカつくからだよな？

ホへ～：ムカつく？ う～ん。

センター：俺も気になるんだよね。何でかなって思うと、理由が今はまだ分からないんだけど、イラッと
するんだよね。括られると。「～離れ」って言われるのが。

付き人：俺たちの世代は、最初から近づいてないもんね。昔の若者が車を買ってただけで、俺たちの世
代は最初から近づいてないわけで。「～離れ」っていうのは、単に時代が変わって、価値観が変
わっただけで。なんか「離れた」っていうのが変な感じがするなあ。

センター：ムカつくのって、ボクだけですか？

ホへ～：ムカつきはしない。

安倍さん：いや、ムカつく、ムカつく。何でかって言うと、その「～離れ」っていう言葉のニュアンスと
して、企業側から責任転嫁されてる気がする。そっちがちゃんとリサーチするべき話で。逆に
企業側に立って考えると、ライフスタイルに変容して、レンタカーでも乗れるんですよ、みた
いな。まあ、「車離れ」ってすれば、パッと言いやすいなって気がするけど、言われる側から
すると、「責任とれよ」って聞こえる。

世界の野糞：話の議題は、なぜ人は世代で括るのかってこと？

小霜：いや、最初に言ってたのはさ、車から離れてるわけじゃないってことでしょ？所有していないって
だけであって、車は使ってるじゃん、って話だよな。

ホへ～：そうです。買ってないだけじゃん、ってことです。

小霜：それを「車離れ」って言うと、車自体を若者はまるで使っていないみたいに聞こえるってことだよな。
関係性が変わっただけだよ、ってことが言いたいんだよな。

ホへ～：そうです。世代論とかではないです。

で？：逆に近づいてるものとかもありますよね。チャリとか乗ってる人もすごく多いし。焼酎が好きな人
が増えれば、一気に近づくみたいな。

おにぎり：この年代だからかもしれないけど、車を持ってるとか、買いたって人はあまりいないけど、
車が好きで雑誌を買って眺めてる人とかはいたりしますね。レンタカーで、自分が乗ったこと
のない車に乗ってテンション上げたりする人とか。

ホへ～：別に、若者が車を嫌いになったわけではないと思っていて。先日も家族で車に乗ってたんですけど、車に乗ってどこかに行くのは楽しいということをボクらは知ってるし、これを友達と経験したいってのもあるんだけど、お金ないし、持ってるだけでお金かかりそうだし。けど、買わないって理由だけで、車を買わせたい人たちが「若者は車から離れていってる」とか言い始めて。もっと、ちゃんと見ろよ、って言いたくなるんですよ。結構、「若者の～離れ」ってそういうの多い気がするんですよ。そこに生じる、車から得るものや、得たいものっていうのは、まだちゃんと持っている。ビールは、皆で飲むときに乾杯するとテンション上がる、とか。もっと、若者を深く見て、考えた方が良くないかなあ、と思うんです。で、皆、どう？みたいな（笑）

世界の野糞：それに関しては、ボクも思っていて。わりかし、車に頓着がなくなったのは、ボクらへんの世代くらいからなのかなって気がして。例えばデートのときとかは、「わ」ナンバーのヴィッツでも全然良いとか。でも、もうちょっと余裕があるなら、スバルのなんちゃらとか。やっぱ、車に求める価値が変わってきたというか。所有することで満たされていたものが、今は別に運転することで満たされている、みたいな。

で？：なんか、所有欲も薄くなってるとは思いますよね。シェアハウスとかカーシェアとかが流行ってるのも多分そうだし。買わないとどうしても手に入らなかったものじゃなくなってきている、というか。

センター：あ、でも今、持ってることにめっちゃ快感を覚えているものがある。俺、本をめっちゃ買っていて。本棚に並べてるのが、なんだかヤツタ感があるというか。スケールが小さくなったと言われていたら、それまでなんですけど。車は、本当にカーシェアリングで十分だし。ただ本は、人から借りるとかじゃ嫌で。持ちたいっていうのが。

安倍さん：Kindle じゃダメ？

センター：ダメ。本が良い。う～ん。所有欲がなくなっているというのはなあ。

で？：なくなっているというより、薄くなってると。持ち家が絶対良いとか言う人も少なくなってるし。

付き人：でも、田舎の若者は、普通に車を持ってますよ。ボク、広島大学ですけど、3年か4年になったら5人に3人くらいは車を一台持ってる感じですね。

ピロリ：それは、ないとどこにも行けないからじゃないですか？

付き人：そうですね。田舎だから、車がないと何もできない。東京みたいに電車でどこでも行けるわけじゃないんで。

小霜：じゃあさ、なんで所有しなくなったんだろう。

センター：昔の人が何でそんなに拘っていたのか。

世界の野糞：モテるんじゃない？（笑）

ピロリ：モテるという幻想が大きかったのかもしれない。

安倍さん：幻想だったんですか（笑）

センター：今、車持ってもね。いや～大変だ、みたいな気持ちになる。

で？：ああ、そうなんだ、くらいですよ。

センター：稼いで、めっちゃ良い車買いたいっていうのは、あんまりないですよ。

ピロリ：なんか、車自体に「カッコいい！」とは思わないんですか？

ホへ～：いや、思うときもありますよ。

ピロリ：乗ってて楽しいのは、おっしゃる通りなんですけど、「うわあ、これカッコいいな～」とか、あります？

ホへ～：カッコいいと思う車や、好きな車はありますよ。

ピロリ：これ自分で持ってみたいなあ、みたいなのは。持ちたいとかは、ないんですか？

ホへ～：停まっている車を見て、良いなと思うことはありますけど、そこで「持ちたい」とまでは思わないかもしれませんね。

ピロリ：車ってデザインがあるから、好きな人は「カッコいい！」と思って、「欲しい！」と思うわけじゃないですか。それが最近の口はないのかなあ、と思って。

世界の野糞：ボクも、カッコいいとは思いますが、それを所有して、日々乗りたいとは思わないかな。

ピロリ：日々、庭に置いて眺めたい、とかはないですか？ 自分の周りにそういう人が多くて（笑）書斎から見えるようにしている、とか。

おにぎり：すごくお金がかかりそう。

センター：そっちを考えちゃうよね。そういうこと言うと、上から「つまらない世代」とか言われちゃうかもしれないけど。本当にそうなんだもんね。

付き人：でも、めちゃくちゃお金があったら、買うでしょ？ボクもなんですけど、今の若い人たちは、現実的な範囲で全てを考えてると思っでいて。手の届く範囲。一年くらい貯めたら買える、とかそのくらいの範囲で考えてる気がする。来月は良い服買おう、くらいですね。

で？：確かに。自分の身の丈を見すぎている。私の弟は、今20歳なんですけど、まさにその通りです。あれしたい、これしたい、とかがあまりないですもん。私の学生時代は、バイトしてお金貯めてあれしたい、とかだったんですけど。

おにぎり：昨日ちょうどお父さんとそんな話をしでいて。お父さんは、働き始めた頃に、苦しくて、ツラくて、会社をやめたくなるだろうから、先にローンで車を買って、仕事をやめないようにしたって話をしでいて。それを聞いたら、それは自分たちの世代は発想しないことだなあと思っで。

センター：確かに、ないな。

小学生：お金や、将来の不安っでいうのが、今はあっで。昔と違っで、会社がずっで雇っでくれるわけじゃないし、っでいうお金の不安から、身の丈に合っでた範囲でしか考えないのかなっで気がする。

小霜：えっでね。これもまた、俺の仮説なんだけど。皆の話を聞いでいて、俺が一個思っでたのは、「お金が〜」というのは違っでと思うんだよ。さっき、スマホでも言っでたけど、快感がある物は流行るんだよ。人間は、気持ち良いことには、打ち勝てないから。金がなくなっで、酒にはまる人は酒を飲むし。金なくなっで、ソーシャルゲームに金をつぎ込む奴はいるし。パチンコする奴は、パチンコするんだよ。それが人間だと思っでるのね。

でね。理屈で考えたら、いけないと思っで。こういう事情があるから、こうなんだ、とかね。こういう状況だから、こうなるんだ、とかじゃなくてね。もっと、気持ち良いか、気持ち良くないか。生理で考えた方が良くと思っでよ。クリエイティブだっでたら、なおさら。

で、車に対する俺の仮説は、一個あるんだけども。車っでいうのは、ペットなんだよ。あ、ペットだっでた。昔はね。だっで、四つ足に目がついててさ、あんな動物のメタファーに決まっでるじゃない。ただ、危険なペット。俺が子供のときに恐竜王子っでいうドラマみたいなものがあっでたんだけど。恐竜とか、ドラゴンとか、そういう類いの危険なペットだと思っでるんだよね。ボクは学生の頃に、走り屋で。自分の車とか改造してたりしたんだけどね。本当に。第三京浜とか、すぐ走りやすかっでたりしたわけよ。

センター：かっこいい（笑）

小霜：ボクが当時乗っていたのは、色々あったんだけど。マツダのコスモっていうのとか。ロータリーターボっていうのが、マツダのコスモから出たわけよ。で、そのロータリーターボっていうのが、当時ものすごく速かったわけ。史上最強のスカイラインみたいなものもあったんだけど、迷ったあげく、コスモを選んでさ。とにかく速いの。でも、東名高速とかでスカーツと走っているとね、横からベンツがさ（笑）スーッと抜いてくるんだよね（笑）まあ多分、チューンアップとかしてるんだろうけど、ベタ踏みしても負けるんだよね。

センター：ベタ踏みできるってのが、すごいですね（笑）

小霜：そうでしょ。で、今の日本の交通事故の死亡者ってのが、ある年からガクンと減ってるわけよ。急減してるわけ。それは多分、警察の努力だと思うんだけど、取締を強化して、ちょっとでもスピードを出すと止められるようになった。で、多分、それまで車っていうのは危険なペットだったんだけど、ただのペットになっちゃったんだよ（笑）

世界の野糞：なるほど（笑）

小霜：危険じゃなくなったんだよ、おそらく。走れないもん、今。それでね、ボクも今はスピードを出さなくなっちゃったんだけど。出すとすぐに捕まるし、ボクの場合は家族もできたからね。でも、学生の頃は、しょっちゅう免停。三ヶ月免停、半年免停をしょっちゅう繰り返しててね。当時は周りもそんな感じだったよ。

世界の野糞：結局、捕まりはするんですね（笑）

小霜：捕まるよ、たまに（笑）でね、車っていうのが、多分関係性が変わってきていて。昔はね、危険な相棒っていう感じだったんだよね。今はね、危険でも何でもないただのツールになっちゃってると思うんだよ。だから、別に持ちたくもない。カーシェアリングで良いんじゃないか、レンタカーで良いんじゃないか、っていうふうになってるんじゃないかなあ。

コイツ（付き人）にね、最初ボクの手を運転させてたんだよ。

二回くらいぶつけたから、もういいって言ったんだけど。彼の運転を見てるとね、タラタラ走ってるのよ。コイツは不思議だなあ、と思ったのが、ポルシェに初めて乗って、なんでポルシェの性能を試してやろうと思わないんだろう、って。俺だったら、新型のフェラーリとかに乗ったら、どんだけ加速するか試してみたくなると思うんだよ。俺がコイツだったら、「ちょっとアクセル踏み込んでみても良いですか？」って聞いて、「うわやっば出るなあ」とかさ（笑）やっば、彼らにとって、車はただのツールなんだよ。危険な快感を与えてくれる乗り物とか、ペットではなくなってるよね。とても良いことなんだけど、警察の取締の強化と、交通事故の死亡者が減ってることとか

が関係してるのかなあ、って。でも、それと同時に、所有してまで乗ろうと思うものではなくなっ
たんじゃないかなあ、と思ってるんだよね。

センター：一般道で、100キロくらい出すだけで、「おっ」ってなりますもんね、今。

世界の野糞：レンタカーでヴィッツ借りてデートっていうのが、なんだか家電感覚というか。単純に移動
だけのツールになってる感じはしますね。逆に、インプレッサとか恥ずかしくて乗れない、
みたいな。

ホへ～：オープンカーは嫌、っていうのを見たことがあります。カーライフのリサーチとかしてたときに、
見たんですけど。今の若い人たちに「軽自動車でのデートはどうか？」っていうアンケートをし
たときに、大半のひとが「大丈夫」って解答してて。逆にオープンカーは、かっこつけすぎてて
恥ずかしいって答えてる人が多くて。

小霜：そもそもね、車を持っててモテるなんてことは、ありえないよ。

ホへ～：え、モテる時代だったんじゃないんですか？

小霜：いや、時代は関係ないと思う。だって女の子からしたら、車に興味なんてないんだもの。

世界の野糞：幻想だったのか。

小霜：「良い車に乗ってるし、この男の人、好き」なんてことは、ないよね（笑）そうじゃなくって。男
の人からすると、自分のペットとか、自分の相棒と思ってるから、そいつも含めて女の子に紹介し
たいんだと思う。そんな感覚だと思う。

で？：そうかあ、なるほど。オープンカーに乗ってる人、この間、いましたよ。新宿に。バラの花束をバ
サッと置いて、ギュイーンと。

センター：オープンカーに乗ってみたいっていうのは、あるけどなあ。

小霜：ちなみにね、俺はオープンカーに三回乗ったのよ。最初はBMWの中古で、次もBMWで、あとメ
ルセデスのCLKね。4シーターのオープンカーが、好きだったのよ。それまではオープンカーじゃ
なくてね。走りに関して言うと、オープンカーはダメだからさ。屋根がないとどうしても車体が歪
むから。その頃は結婚してたから、もう飛ばさないし。優雅にオープンカーでも乗って走りますか、
って感じで乗ってたんだけど、オープンにするのは最初の2ヶ月くらいだけだね。結局開けるのが
めんどくさくなって。

ピロリ：季節も関係しませんか？開けて気持ちが良い季節ってのが、日本だと少ないのかなあって。

小霜：一番気持ち良いのは、冬。

世界の野糞：へー！

ピロリ：意外ですね。

小霜：冬が意外と気持ち良くて、あと夏の夜。夏の昼間にオープンにしてる人は、相当ガマンしてると思う（笑）でも、冬のオープンは気持ちが良いよ。

付き人：本当に、真冬とかですか？

小霜：その質問の意味が分からない。

付き人：1月とか2月の、本当に真冬の頃だと寒くないですか？

小霜：だったら閉めれば良いじゃん。何を言ってるの？（笑）いや、全般的なことを言ってるわけで、空気が冷たい時の方が気持ち良いよね、って言ってるわけで。そりゃ、耐えられないくらい寒いときは、閉めれば良いよね。

世界の野糞：ボク、出勤のとき、毎朝東京から東銀座まで歩いてるんですよ。出勤中によく車の人とかいて、ポルシェとかが通ると、どんな人か見ちゃうんですよ。ボクの中で、銀座をポルシェで通る人は、悦に入ってる気がして。見られることを意識してるなあ、っていうのが見て取れて、ダサいなって。でも、女性の人で、これはおそらく旦那さんのポルシェをちょっと借りてるだけだなって感じがする人が松屋に入って行くと、オシャレだなって思う（笑）

センター：主観がかなり入ってますけどね（笑）

世界の野糞：ああいうふうに、スマートに乗りたくないあつて。

ホへ～：家族ができれば、ボクも欲しいかもしれないです。

ピロリ：え、オープンカーを？

ホへ～：いや、オープンカーかは分かりませんが、車を。

センター：例えば、今の若い人たちに、危険な相棒ってイメージに変わったとして、欲しいかな？ 走れる環境じゃないのか。

小霜：そうそう、走れないから、もう危険じゃないよ。

世界の野糞：今の聞いてて思ったけど、地方の女の子で日産のモコとかを所有してる人がいて、可愛いって理由で買ってる気がしますね。ある種のペット感覚かもしれないですね。

で？：だから、内装のカスタマイズとか、やってますもんね。

付き人：それで、プロフィール写真にしたりとか。田舎の人、けっこう自分の車を SNS の写真に使ってますよね。

センター：田舎の方が、まだ飛ばせるのかな。走れるのかな。

付き人：まあ、あるかもしれない。

ホへ～：走れるとかより、可愛いペットっていう感覚の方が強いと思う。親とかにも買ってもらえるし、使う機会、可愛がる機会が多いからかな。走り屋はあまりいないけど、車を持ってる人が地元結構いるね。デッカい車に乗ってて、スピーカーを改造してる、みたいな。

センター：ボクの地元、成人式のときに帰ったら、車のブレーキランプを片方壊すのが流行っていて。

世界の野糞：え？！

おにぎり：え、最低（笑）

センター：それも、ペットに服を着せる感じなんですかね。

で？：え、ワザと？

おにぎり：自分で？

センター：一台目を見たときは、壊れてると思ったんですけど。それが複数台あったんで。

で？：それは、オシャレな感じでやってるの？ブレーキランプを？

センター：そうですね。

安倍さん：自分で？

センター：多分、自分で。

世界の野糞：自分で？そうなの？

センター：さすがに直接は聞いてないですけど、多分自分で。割と皆、壊してたので。

おにぎり：じゃあ、そろそろ、次の人。

【安倍さんの議論提案】ドラマのスポンサーになったら、最後まで降りないべきでは。

安倍さん：ちょっと提案で、過激なんですけど。テレビドラマの話。ドラマのスポンサーになるんだったら、最後まで一緒に心中しろ、っていう提案です。

小霜：明日ママの話？

安倍さん：そうですね。なんでかって言うと、映画と違って、ドラマって特に話が細切れで、最初の一話を見ただけじゃメッセージなんて分からないし。もしもそういうドラマに対してお金を出すんだったら、ドラマの脚本を読んだりとか、ドラマの全体を把握した上で、お金を出します、と約束して欲しくて。それは何でかって言うと、こういうドラマを審査の対象にすると今後社会的なドラマを作りにくくなっていくから今回は審議しない、と言われていて。でも、たくさんスポンサーは降りてしまって、脚本家や表現する人にとって、ダメージは大きかったんじゃないのかなって。そこは、もう降板とか辞めてあげて、っていう提案です。

小霜：その提案についてどう思うかってこと？だって関係者いないのに提案してもしょうがない。

安倍さん：そうですね。どう思うかっていう…

ピロリ：スポンサーが最後までCMを流し続けろっていうこと？お金的にはもう払ってるわけだよな。

安倍さん：そうですね。

で？：スポンサーし続けて名前を出し続けることで不利になるんじゃないの。企業的にイメージが落ちるみたいな。

安倍さん：ただスポンサーに言いたいのは、番組がこういう話だってことはわかってたでしょって。もしくはわかってないかもしれないけど。もしわかってたらスポンサーでい続けるべきだし。

で？：半分わかってるようで、わかってなくても投資しちやったんじゃない？

ピロリ：でもドラマとかですべてが完結してからスポンサー探すのって無理だと思うよ。時間的なことと言うと。

で？：撮りながら流してるんですもんね。

ピロリ：ある程度大枠のところでは話か最初に撮ってるだろうけど。最後まででは時間的には難しいよ。最後までわかってからスポンサーをつけるべきだってことですか？

安倍さん：そうですね。映像はまだしも脚本ぐらいは最後まで読んでほしいなと。

センター：脚本って最初に決まってるの？

安倍さん：それは、まあ、原則で。

小霜：今言ってることはさ、矛盾をはらんでるわけ。スポンサーっていうのは番組、ドラマの内容を買ってるわけではない。時間帯を買ってるんだよ。つまり水曜の日テレの10時から11時、その時間帯を買ったりするのよ。だからそこ買ってるスポンサーは、番組が終了して新しいドラマに変わったって、変わらないわけ。そのかわり、ドラマの内容にはそんなに口出ししない。このドラマこうなっちゃうんだ、じゃあ降りようとか、こんなドラマが始まるんだ、じゃあやろう、みたいなことにならない。ということはね、君が言うようにドラマを最後まで責任持てということはさ、じゃあ最初から内容吟味しますよ、口出ししますよってことだから。わかる？ そうなるとドラマを作ってる人たちはすごく不自由になるかもしれないよね。彼らはおそらくそんなに公序良俗に反しないドラマであれば、今ついてるスポンサーはOKだろうということで、あとはこっちにまかせてくださいということでやってるはずだから。

それが映画の製作委員会みたいにいろんなスポンサーOK取らなきゃいけないってなってくるとさ、やってられないってことになっちゃうよね。

あともう一つ言うとね、スポンサー降りたって言うけど、金は払ってるんだよね。

ACってのは企業が金を払ってるんだよ。お金は払うけども、自分たちの作ったCMは流さないでって言うてるだけで。

安倍さん：やっぱり内容を把握してお金を出すって順序だったら、スポンサーに口を挟まれるっていうのはなかなかキツイなあとを思います。ただスポンサーがたくさん降りたことで、テレビ局や企画を考える人の方針として、社会問題を扱うのはやめようって流れになるのはやだなあと考えて。

ピロリ：あれ、「明日ママ」って局のネットで観れたじゃないですか、1週間分。オンデマンドじゃなくってお金払わなくても。私は時間どおりに観れないのでほとんどそれで観てたんですけど。そうやって観てる人も結構いるんじゃないかと思って。そうすると視聴率ってどうなるのかなって。

付き人：あ、それ思います。録画して観てる人とかの視聴率とかもどうなってるのかって。

センター：その場合はCMは入ってるんですか、入ってないんですか？入ってない場合はそれで観たら企業にとっては何の意味もなくなるっていうか。

で？：YouTubeで翌日観たりしますよね。

世界の野糞：今の話と関連するかどうかわからないけど、たまたま今日の朝教えてもらったんですけど、リクルートのリクナビで「子どもに夢を託さないでください。あなたの夢をちゃんと追い求めてください」ってメッセージで転職を促すCMをやっていて、それがWEBで結構叩かれていて、今のサラリーマンを否定するのか、みたいな趣旨で。

そういう、気にしてちゃしょうがないことまで気にしなきゃいけない世の中になっているなと感じていて。

僕自身もこの前、あるクレーマーの発言から弁護士を稼働させるぐらいの大事になったことがあって、それがやっぱり、法令は守ってるんだけど、もうちょっと大きな概念のいわゆるコンプライアンスっていう、企業としてどう立ち回るかってところがちょっと由々しき事態になったので対応してたんだけど。

どこまでそれをやっていけばいいのかなって。そういうのをリスクとして考えちゃうと、何もやらないのがいちばんローリスクでいいっていう、極論するとそうになってしまうわけで。

そのバランスってすごく難しいなって思う。何かを表現することって何かのリスクを作ることなんで。

ホへ～：リクルートのあれ、僕は見た時にどうも思わなかったんですけど。

あれで今騒がれていて問題なのは、あの人たちのメッセージを伝えたいターゲットってサラリーマンじゃないですか。そのサラリーマンが怒っていたら、そりゃダメだろうって気がして。子ども目線だったらたぶんいいかもしれないし、けど転職を促すCMで結果サラリーマンが怒るんだとしたら、それは想像しなかったのがいけないんだという気がして。僕はまだ勤めてないからわからないんですけど。

世界の野糞：それがさ、8割怒ってたら問題だと思うんだけど、どれほどが怒ってるのかっていうのが・・僕はあんまり怒ってないんじゃないかなっていうのがあって。

センター：すごいですよね、今、クレーマーの発言力というか。

一般の人が誰でも意見できるようになったっていう良さの反面、一人が否定したり、叩かれているところにみんな一気に乗っかってきてどんどん大事になってっていうのが多いですよね。あのカエルのビールのCMとか。意味分かんないじゃないですか、あのクレーム。それで結局、ANAのバカリズムのやつとかも、あれはまあ、僕たちにはわからないから「すみませんでした」って感じだけど、カエルは子どもがそう思ってなかったら言いがかりでしかないってことですよ。

小学生：何分の何人って、母数がわかんないですね。

センター：しかも何分の何人以上だったらっていうのも違うもんね。じゃあ3分の1 あったら禁止しろって言われたら。一人足りなかったら禁止じゃないっていうのも違いますもんね。エステーの宣伝部長さんの本を読んだ時に、服のCM で服に穴が開いちゃったから、隠さなきゃいけない、でもテニスの試合でなきゃいけないから、口でラケットを持ってするっていうCM があっていいんですけど。それで障害者の方からクレームが来て、その時にすぐ反省したらしいんですけど。傷つけることは絶対しちゃいけないっていう。それは間違いなく傷つけちゃいけないっていうのは多分真実だと思うんですけど。さっきのリクナビは傷つけるものなのか、単純に怒らせているものなのか、っていうのが微妙ですね。

世界の野糞：まあ、あのCM だけについて言うと結構決めつけのメッセージだったから、反発を招いてるのかもしれないっていうのはクレームを聞いて思ったけれども、それを聞くまでは僕自身は何の不快感もなかったし、確かに子どもに託そうって俺、思いがちだなって。痛いところ突かれたなみたいなのはある。

ピロリ：強い言葉が残せなくなりますよね、それでいちいち対応したら。

小霜：そのリクルートのCM はそれでどうなったの。結局オンエアしなくなったとか？

世界の野糞：それは僕の調べた限りではネットだけだったみたいで。

ピロリ：それは、WEB だけのCM ですよ。

世界の野糞：まあ今取り下げられているかどうかかわからないけど、少なくとも地上波ではないので。

センター：WEB だったら自分で観る観ないを選択できますよね。

世界の野糞：観ますか、今みんなでそれを。

ピロリ：でも私、最初にそれを観たときは、あ、すごい鋭いなって思ったんですね。やるねって言う。

世界の野糞：うん、しがちだよな。（映像を観る）

世界の野糞：ちなみに批判の意見は、サラリーマンを馬鹿にするとか、子どもにこんなこと言わすとか。こういうもの作ったのはリクルートだろ、みたいな。（一同笑）

小霜：えっとね、僕の意見は批判派に近い。何が問題かっていうとね、子どもに言わせてることだよ。リクルートが企業として、子どもに夢を託さないでくださいって言うならいいと思うのね。だってよくわからない子どもに言わせてね、子どもの気持ちのように演じさせてること自体が気色悪いわ。批判してる人はそのあたりの気色悪さを言ってるんだと思う。

世界の野糞：ちなみに今検索してトップに出るのは「なぜこのリクルートのCMは気持ち悪いのか」っていう。

小霜：あ、そうだよ。意図がやっぱりね、嫌らしさを感じるんだよ。なんだろう、子どもを操ってる感じ？なんか卑怯なものを感じるよね。僕は正直に、観て嫌なCMだなと思った。で、これを気持ち悪いって言うてる人に僕は健全性を感じる。

ピロリ：子どもが歌ってなかったら、そうでもないんですかね、このメッセージ自体は。

小霜：同じかもねえ・・・

ピロリ：例えば誰かバンドのメンバーが歌ってるとか。

小霜：大人が歌ってるってこと？だったらいいんじゃないの。

センター：矢沢永吉が歌ってるとか（笑）

小霜：大人は全部わかった上で判断してやってるからいいわけで、やっぱり何もわからない子どもを利用してると見えちゃう。それ、やっちゃいかんだろう。

センター：それでいうと、リクナビからちょっとはずれちゃうんですけど、僕、選挙ポスターって嫌なんです。何もわからない子どもにこういうお題で書けって言われて、みんな「一票を大事に」とか。もちろん目的がそれよりかは健全なのかもしれないですけど。駅とかに貼ってある「納税。一人ひとり」って書かせるやつも嫌なんです。絶対子どもは思っていないだろうって思うのに、みんな笑顔になってる。

ピロリ：それ子どもの写真を使って？募集してるやつ？

で？：コンクールみたいな。子どもという存在がいることで、すごく清く正しいものみたいになっちゃうのかな。

小霜：話を元に戻すとね、僕の意見だけど、クレーマーに対しては企業の立場としてね、撥ねつけていいクレームと、撥ねつけちゃいけないクレームってあると思うんだよね。僕も実は一回だけあるのよ、クレームで参ったなっるのが。それはクリナップのシリーズで、ステンレスのフォークとスプーン

がやりとりするってやつなんだけど。自動で換気扇を洗えるって商品があって、フォークとスプーンが洗われてさ、「自分で自分を洗えないなんてまるで赤ちゃんじゃないか」って嘆くのよ。いやほんとうっかりなんだけど。クレームが2件来たんだよね。自分の子どもが障害者で自分で自分を洗えない、と。それを見て傷ついてるって話で。

すごく難しいのが、こういうとき、作り話する人がいるんだよね。作り話でクレームを入れてくる人がいるから、その可能性もあるかなって思うんだよ。クリナップって身体障害者の方を積極的に雇用してる会社なんだけど、ネットの一部ではクリナップってのは悪徳企業でどうのこうのって人もいたんだよね。でも本当の話だったら、とも思う。本当の話だったらすごく罪なことをしてるし、許されないことをしてるなって。そのクレームはオンエア終了日の2日ぐらい前に来たんで、オンエア終了してそのまま、シリーズとしては中止することになったんだけどさ。

もしうちの子どもはあれで傷ついたっていうのが本当のことだったら、やっぱり猛省すべきだよなって。社長が実際に謝りに行ったりってことをやったみたい。でも、さっきの「子どもに夢を託すな」ってのは表現の問題。気持ち悪さってのはあるにしても、そこに対して「いや違うだろ」ってのは意見だからさ、企業の意見に対して「いや違うだろ」ってのは意見の応酬にすぎないわけだから。だからオンエアもしないって話ではないと思うんだよな。

そのへんが今、一緒になっちゃってるから。クレームって言ったら全部クレームだってことで。そこを企業としてはちゃんと吟味するっていうか、仕分けをする必要があるんじゃないかと思ってる。どんな表現であれ、一億人に対して見せるわけだから。絶対責任は生じるんで、その責任を背負うって覚悟がなければそんな仕事はできないと思うんだよな。

ドラマで言うとね、「明日ママ」の裏番組で「僕のいた時間」ってのをやっててさ、ALSにかかった男を描いているんだけど、僕の女房のお母さんがALSの診断を受けて余命半年って言われたことがあったので観てたんだけど。お母さんは結局その診断が間違っていたってことになって、今も元気なんだよ。それはすごくよかったんだけど、ALSみたいな残酷な病気を取り扱うっていうことが、ちょっと俺にとってはあまりにも恐ろしすぎて、どう評価すればいいんだろうって。

レビューとかにはね、感動しましたとか書いてあるんだけど、泣きましたとか言ってるんだけどさ、泣くっていうのも娯楽じゃない。泣きたいなあとって映画観に行こうとかあるわけでしょ。ALS患者をつまみにして楽しんでるってしか僕には見えないわけよ。それに対してどのくらいの責任感を持って作ってるのかなあって僕はちょっと思っちゃうなあ。まあそういうこと言い出すと何も作れなくなるじゃないかっていうのもあるんだけど、どういう度胸でやってるのかなって。しかも中身薄っぺらいしね。そういう重いテーマ扱うんだったら見事なドラマにしてくれよって思うんだけど、平凡な内容だったなあ。それはただの僕の感想でしかないんだけど。

センター：いじめの題材やってた時に思ったんですけど、いじめてるって思ってなくてもいじめてるって言われた時に、どっかでヤバイなって思ってたら、言われたらひやっと思えると思うんですけど、本気で思ってなかったら言われても、いや違うって本気で言えるっていうか。広告とかもどっ

かで馬鹿にしてるとか、目的でもないのに使ってしまうっていうのが1mmでもあったら、だめで、本気で違って作ってたら、言われてもすぐに言い返せるのかなって思いました。

世界の野糞：僕らはなぜこれを題材として何を伝えたいかみたいなものがちゃんと固まっていれば、多少のツッコミに対しても、いや我々はこう考えてるんですって言えるって思っている。そこがちょっと甘いのかもね。ファミマのフォアグラも一瞬にして消えたよね。

安倍さん：なんですか、それ？

世界の野糞：ファミマがフォアグラ弁当作ったんだよ。そしたらクリームが入って。そもそもフォアグラっていうのは鳥をある程度いじめて作るものなのね。無理やりチューブから餌をギューツと入れて、内臓を異常な事態にして、それがフォアグラになるっていう。そういうことをやるなんてケシカランみたいな話があり、急遽販売が取りやめになったっていう。

安倍さん：それはでも、前からわかっていた？

世界の野糞：フォアグラっていうのはそういうものだとわかっていたので。それをファミリーマートがやるのはどうなんですかって話があって、ファミマが急に取りやめたっていう。その前にジョナサンがフォアグラのメニューを作ってたんだけど。

安倍さん：フォアグラ弁当をファミマで売るなって人は、普通のレストランでもフォアグラを出すなっていう人達ですか？

世界の野糞：うーん、そういう活動家なのかわかんないけど。

付き人：あれ、でも、噂でTwitter たどっていったら、言い出した人はローソンの人だったっていう。ローソンのバイトの人だって。

で?：なるほど。利害関係があったってことですね。

ピロリ：他社から言われるってのは、よくあるって、聞きますけどね。

【コゲ太の議論提案】 なぜインターネットの出会いにはマイナスのイメージがあるのか。

小霜：せっかく（コゲ太からのモヤモヤが）封書で来てるんで、これをラストにしよう。

「なぜインターネットの出会いにはマイナスのイメージがあるのか。友人がインターネットで出会った人と同棲を始めることを聞いて、大丈夫かなと思ったことがきっかけ」だと。

センター：出会い系ではなくて普通に Twitter とか・・

小霜：そういうことだね。ちょっと待って。

「思い起こせば自分もインターネットで知り合った外国人と3年も文通しているし、海外に詳しい友人に最近海外では Facebook のメッセージでやりとりして仕事をしようってことになって初めて対応することが多いということも聞いた。ではなぜ恋愛というとマイナスに働くのか。みんなの意見を聞きたいです」

で？：私の友達がまさにそうで、当時は mixi が大流行してて mixi のコミュニティからメッセージやりとりで会って、6年前で今同棲してるんですけど。そのときは「おととい mixi で知り合った人と会ったんだよね」って言われて「え？」みたいな感じで。しかも「車乗ってドライブしたんだよね」って言われて「刺されなかった？」ってこっちは思った記憶があります。今は感覚がちょっと違うのかな。

センター：マイナスイメージ、ありますよね。

ピロリ：事件とかもあるしね。出会いとなったら。

センター：いい人に出会ったらそれはそれでいいんですけど。

で？：たまたま、そのときはいい人に出会ったんだろうけど。

センター：でも危ない人はいることは絶対いるから、怖いと思います。

ホへ～：たとえいい人に出会ったとしても、友達から出会いはネットって聞いた時に、怖い人がいるネットで危険な人もいるかもしれないのに、こいつ会えちゃうんだ、みたいな。危ない目に遭うかもしれないし、あんだけ犯罪が起こってるって聞くのに、会えるっていうその感覚がすごいなっていう。僕、たとえその人がいい人でも、友達にどこで出会ったって聞かれたら、ネットっていいたくないと思うし。ネットで知り合った人と会えるっていうその感覚が気持ち悪いなあって。犯罪が起きるかもしれないのに、素性の知らない人とお前会えるの？っていう、その感覚。

センター：僕、心配するとかキレイごとじゃなくて、ちょっと軽蔑になっちゃうなっていう。ネットで会ったって聞くと、あ、ネット、みたいな。何でなんだろう？へえって。危険な人がいるからってのは、全然なくて。

小霜：あのね、すごくいいと思う。さっき言ったけど、感覚から出発したほうがいいのよ。素直に考えてネットで知り合ったって聞いた時に、ちょっと軽蔑する感じってあるよね、っていう素直な感覚をもとにして、なんでそう感じるんだろうって思うほうが僕はいいと思う。ネットで知りあうって怖いよねというのは、理屈な感じがする。だからその辺に本質があるんじゃないかなあ。

センター：大学生とかでもネットで有名な人っているんですよ。それも、有名なのはすごいってのはありつつも「ネットで有名」みたいな。Twitter ですごい有名でも、たかがネットじゃんってどっかで思っちゃう・・・ネットネイティブな世代になったら変わるのか？

おにぎり：誰か本当に知り合いの知り合いで、自分は会ったことなくでネットで知ってる人とかってたくさんいるけど、そういう人だったらまあわかるけど。まったく知らないで、まわりもつながってなくて、って人に会って、すごい、よくそんなことができるなって。最近まわりで・・・Facebook のお見合いってアプリ知ってます？あのアプリで知り合った子とデートしてるんだよねって話を何回か聞いて。私より 10 歳上ぐらいの会社員の男の人なんですけど。

世界の野糞：それはランダムに出てくるの？

おにぎり：それはわかんないんですけど。たまたま同じような話を 2 回聞いたのですごい印象的で。あれって本当に出会いになるんだっていう・・・

センター：嫉妬なんですかね。

全員：嫉妬？

センター：みんな多分そういうのってしたいのになって。

で？：ええ？私したくない。

安倍さん：例えば、10 人ぐらいのグループでこないだ知らない人と会ってきたんだよっていうのはどうなんでしょうか。ネットでそういうコミュニティがあったら。

センター：オフ会とか？

おにぎり：それは出会い目的って決まったわけじゃないじゃないですか。そのお見合いアプリは名前からして相手を探すような。課金するとメッセージができるらしんですよ。

センター：へ～、出会い系だ。

おにぎり：そんなこともあるんだ、世の中はって思って。

食い丸：私は Twitter でカレー屋さんをオープンさせるっていうのがあって。そのフライヤーを作って欲しいってのがリツイートでまわってきて。それに、あ、やりますよってメッセージ交換して、実際に会ってやったことがあるんですけど。私も会う時に、ヤバいやつかもしれないから気をつけてねと友達に言われたんですけど、でもそれは実際に会って、その人の本気度が伝わったから。で、仕事というか関わったりして。今も普通に仲いいんですけど。そういういい出会いもあって。そんなに私は嫌じゃないんですけど。出会いとしてはマイナスイメージがあるかなっていう。

センター：確かに、恋愛だけなのかな。俺、小霜さんに初めて連絡したの Twitter だし。それ聞いてたぶん何も思わないですよ。え？とか。軽蔑するとか（笑）。恋愛だからなのかな。それってやっぱり羨ましいんじゃないんですか。

で？：羨ましいっていうか。まわりにいないのかな？と思っちゃう。リアルな世界で。ネットじゃなくてもまわりにそういう出会いがないのかなって。

小霜：ネットで付き合ったっていう言い方とさ、ネットがきっかけで皆で飲みに行って、付き合うようになりましてっていう言い方とちょっと違うじゃない。後者の軽蔑感覚はあるのかな？

センター：まあ、うすいですね。

小霜：つまり、好きになるタイミングがね、ネットで文通しているときに好きになったのとさ、ネットがきっかけでそのあと直接会って好きになったのとタイミングが違うでしょ？それどうなんだろう。同じことなんだろうか。

おにぎり：確かに全然違う…

センター：でも、ツイッターでナンパして出会って付き合いまして…

小霜：いやいや、ナンパしてじゃなくて、例えばその…なんだろう。ネットでね、その、あるグループがあったとして、オフ会をやりまして。オフ会やったときに知り合って付き合いましてじゃあ、目的がちがうと。

一同：うーん。

で？：それはじゃあ、オフ会に行ってから気になって、オフ会に行った後何回か遊んで、ってことですよ。ね。

おにぎり：全然違う事な気がします。

小霜：僕の仮説はさ、人を好きになるって、その人の外見ってあると思うんだよね。その人の表情とかしぐさとか。その、ビジュアルも含めて好きになるのが正常な気がして。その、テキストだけを見て好きになるというのはいびつというか、異常な感じがして、それだけで付き合いましたって聞くと、ちゃんと選んでいるのか？え、誰でもいいわけ？っていう。そういう心理がはたらいて、それが軽蔑に繋がるんじゃないかなと思ったんだよね。

で？：なんか、文章だけで人を分かるわけじゃないじゃないですか。手紙とかだと何となく通じる筆跡とかがあるかもしれないけれど、文章だけでその人の人柄が伝わるのかどうかっていう・・・

小霜：文章だけで人柄が分かったら、この間のベビーシッター事件は起こっていないよね。あれは、文章だけで信じちゃったんだよね。

で？：それで、あのメールの話だと、メールのやりとりだけで好きになるのが、いまだに生理的に理解ができなくて、でもそういうもので結婚している方もいらっしゃるじゃないですか。

センター：ある女性が東野圭吾の小説をすごく好きで、東野圭吾の小説を読んで好きになってそれで猛アタックして結婚したとすると、それは別に軽蔑じゃない・・・？その、文章だけっていう。

ホヘー：ああ、東野圭吾の小説を読んで、東野圭吾良い人だなと思って、っていう話？

センター：そうそう。でも、猛アタックする時に会うか。

ホヘー：以上(笑)

センター：そうか…

ホヘー：僕、ちょっと小霜さんと違うんですけど、もうオフ会って言われた時に気持ち悪いと思っちゃうんですよ。

世界の野糞：それはある、それはある。

一同：あー。

ホヘー：たぶん、ネットで出会っている時点で気持ち悪いと思っている人が大半な気がして、オフ会をみんながあまりやらないのはきっとそこにあって。何かの集まりで会いましたって言われたらへえーそうなんだ、それ何の集まりだったの？って言って、オフ会って言われた瞬間に、オフ会かよ！ってなる気がして。

センター：あの、関係あるかは分からないんですけど、なんか、ツイッターとか2ちゃんねるとかって、モテないキャラがいちばんウケるといふか・・・あれ？ネットって、結局非リアな世界っていうイメージが・・・

センター：そのイメージがあるからなのかな。でもツイッターは違うなあ。

安倍さん：ツイッターも気持ち悪いな。フェイスブックならまだ・・・

センター：現実で出会えないっていうイメージがあれなのかな。ネットっていう時点で現実で出会えないと思うのかなあ。

で？：そこまでは考えないかも。ネットで出会っている本人は。

センター：でも正直嫌ですよね。オフ会行ってきたとか言いたくないですよね。

小霜：そうかあ・・・。意外だなあ。年代的に全然平気かと思ったんだけどなあ。

で？：なんか、学部的にネットとか使ってそうだけど。

世界の野糞：ちなみに今ってオフ会っていう概念はあるの？

安倍さん：今言わないですね。ワークショップとか置き換えてるかも・・・。

一同：ワークショップ・・・！？えー(笑)

で？：ああ、言葉を変えて・・・

世界の野糞：ミクシィのコミュニティ同士がリアルに出会うみたいな感じだったじゃん。今ってさ、コミュニティっていう概念がないじゃない。そういうなかでオフ会自体が存在するのかっていう。

ホヘー：フェイスブックのイベントとか、でもオフ会とは言わないっていう。

世界の野糞：知り合いか誰かからの招待がきてるとか、そうだとちょっと違うよね。

ホヘー：フェイスブックは実名っていうのもあるし、こいつどんな奴かっていうのが出てくるし。でもツイッターは気持ち悪いな。

おにぎり：個人的にオフ会という言葉を知ったときからずっと、オフ会という言葉が気持ち悪い・・・。

で？：でも、オタクの友達がいるんですけど、めっちゃしてますよオフ会。

世界の野糞：それは誰とのオフ会なの？

で？：たぶん、そのオタクの何かのキャラが好きな人のコミュニティですよ。たぶん。グッズを交換したりしている。

安倍さん：今、イベントって言うてるかもしれないのかも。

で？：あ、言いますね。

安倍さん：コミュニティと同じなんですけど、捉えられ方はイベント。フェイスブックでイベント立ってぜんぜん知らない人たちが集まってくるんだけど、オフ会とは誰も思っていないとか感じてない。

ホヘー：十年たったら平気なのかもしれませんが、いまその移行期間というか、なんかネットがその消去法の選択肢みたいなイメージがどうしてもあっちゃうんですけど、僕だけかな。

ピロリ：時代で言うと嫌なんですけど、10年前にイギリスに1年留学して、その前にめっちゃ英語を勉強したかったですよ。で、今みたいにSNSみたいなのが無かったので、掲示板みたいなのはあるし、外国の人がやる。あとペンフレンドサイトとか必死に探して、結構会いましたよわたしは。ペンフレンドとか、それで知り合ったドイツの子とかは日本に遊びに来たりしたし。その時はなんか平和だったの、会ったりすることが。今はなんか、英語なまったりしたなとか思っても、あんまり書きたくないですもん。15年くらい前かな…。

センター：限られた人しか使ってなかったのが、みんな使うようになってハードルが下がったとか…。

ピロリ：あとSNSが大きいと思う。ミクシィはわりと狭かったけれど…。

センター：たとえば現実はあるししゃべれないのに、ミクシィの日記すごい書くやつとあって、すげー、とかじゃなくてネットだけじゃんみたいに思う人のほうが多いのかな。日記を毎日すごい視点で書いていたとしても、現実のほうが優先順位が高いというか、軽蔑とはいかなくても、ネットのほうが優先順位が低いというか。だから、ネットで出会ったって言っても気持ち悪さが。

ホヘー：ネットのがキャラを演じやすいっていうのはある。なんか、演じれる要素が強くて、顔も体もしゃべり方もしぐさも見えないし。演じあってる同士じゃないのかな、わからないけど。たぶんすごい寡黙なやつがネットで雄弁に書いたとしても、多くの人が、ネットのほうは嘘だってなる。現実のほうよりネットのほうが演じている気がして。

安倍さん：ネットで付き合い始めた人とそれを聞いた人とのあいだに、イメージのギャップがある気がして。僕の場合だと、ネットで付き合い合ったっていうと、ネットで連絡先交換して、ご飯食べたりしてそのまま付き合いちゃったみたい。そういうのが浮かんでくるんですけど、実際はそうじゃないかもしれない。いろんな例があるかもしれない。グループで出会ったのかもしれないし、一対一かもしれないし、その後10回くらいあったかもしれないし。

おにぎり：なんか、ネットだけのカップルっていうのがあって。私前に、中高生が集まる掲示板でアルバイトしていたことがあって。

世界の野糞：それ、知ってる。

おにぎり：そういうサイトがあって、そこで、ネットの彼氏が流行っていて。わたしたち運営のほうは消すのが大変で。ネット上だけで付き合うんですよ。会ったこともなしに。異性と。会ってはないと思うんですけどそういうのが多くて。

安倍さん：なんかオンラインゲームとかでも夫婦制度とかあった気がする。

おにぎり：チャットで待ち合わせしたりするんです。

で？：ネットでデートするために。なるほど・・・。

センター：そういうの聞くと、そう、気持ち悪さがあるというか・・・。

おにぎり：やってるの小学生とかですよ。見てて異様というか・・・。

安倍さん：なんだろう、彼氏がいるって自慢したいのかな。

おにぎり：たぶん、引きこもっていたり、ちょっと不登校だったりみたいなユーザーの人が多くて、そういう人たちのなかで流行ってるのかなあって。

センター：メールがあるおかげで、メールで言えばいいっていうの、今はわりともうふつうですよ。

世界の野糞：まあ、LINEとかね。

センター：LINEとかそういう。

世界の野糞：卑怯なかんじ？

センター：やろうと思えば、現実には冷たくてもLINEでは甘い言葉とか言えるじゃないですか。でも、それはしたくないって思う気持ちがあるのか、なくて完全にリアル・・・えっと、ネットではもう、ごろにゃんとか言ってリアルでは言わないっていうのが・・・その、ネットとリアルの区別を完璧につけられるっていうのが違いなんですかね？

世界の野糞：ん・・・？

センター：えっと・・・一回お返しします(笑)彼女と付き合っても、LINEだけでなんか、好きだよとか言ってリアルで言わないって気持ち悪くないですか。

安倍さん：気持ち悪い。

センター：そうそれ。

ピロリ：リアルでは言わないの？あ、キャラがちがうから？

センター：そう、それ。なんで嫌かという、演じてるから？うーん。でさあ、ぶっちゃけさ、友達とかで、普段はまったくしゃべらないのにツイッターですごく過激な発言とかしてると、単純にまじ面白くないじゃん。それを自分が尊敬するかといったら尊敬しないじゃん。

おにぎり：ネット弁慶？

センター：そうそう。そういう言い方になるのはありますよね。

ピロリ：だから、そういう風になっちゃう人がいるから、ネットがそういう位置づけになっちゃってるっていうか。

センター：そうそう。人格って作れちゃうからと思われてるからなのかな。

で？：でもどうなんだろう。ネットで知り合った人は、ネットの方が素直になれるから、偽らずに顔見ないでメールだけで済むからっていうのもありそう。

世界の野糞：すごい感覚的になっちゃうんだけど、ネットで知り合って恋愛感情を持つってすごくじめっとしてる気がしちゃって。センターの恋愛観ってからっとしてるなと思って。その感じが結構嫌うファクターになってるのかなあって。

センター：僕はそう考えちゃってるけど他の人は、それを使いこなしていいじゃんって思ってる人もいるからそれが多いのかなって。

世界の野糞：まあそれもコミュニケーションのとり方だしね。

小霜：一目惚れとあってネットにはないからね。パッと女の子と出会って、好きになっちゃった一、みたいなのがね。なんかその辺がちょっと不自然な感じだよね、ネットって。不自然なものに対してちょっと気持ち悪いとか、違和感を抱くのかもしいね。

センター：ビジュアルでいったらフェイスブックでめちゃくちゃ声かけてる人とかも、僕からすると、リアルで声かけまくってる人よりも気持ち悪さが増すと思うんですけど。

ピロリ：コメントを書くってことですか？

センター：メッセ送ったり。顔見て好きになるとあって、ネットでも同じ気がするけど、フェイスブックで声かけたりって聞くと現実よりも気持ち悪さが増しません？

世界の野糞：俺の先輩はフェイスブックナンパしてて、メッセ送ったりしてるんだけど、それは彼にとってはナンパの延長戦で、俺にとってはそんな気持ち悪いとは思わない。それはやっぱ実名だし写真もリアルだし、結構日常の延長線上にすごく近い気がして。かたや匿名的な関係の始め方はちょっと違和感がある。

センター：それはその人は現実でもそういう感じだっってわかってるからっていうんですかね。

ピロリ：知ってるからじゃないですか、その先輩のキャラとか。

おにぎり：わたし友達がそんな人と会うって言ったら絶対やめなって言う気がする。

安倍さん：フェイスブックで出会ったのと、ツイッターで出会ったのと、掲示板で出会ったのって全然レベルが違う気がする。

で？：たしかに。

安倍さん：掲示板はすごい嫌な感じがするし。フェイスブックは、なんかすごいリスクーな人だなって。

一同：はははは(笑)

安倍さん：ツイッターで出会ったって言われたら・・・どんな感じですか。

小霜：一時期はグリーもあったよね。

一同：あー。

小霜：グリーは相当ね。あの、出会いを求める人妻の・・・。

世界の野糞：高校生じゃないんだ。

ホヘー：僕の男子校ではモバゲーだった。

おにぎり：昔はチャット・・・。

ホヘー：モバゲーで会ってたやつはちょっと軽蔑しましたね。

センター：僕の考えではやっぱ現実主義というか、やっぱネットは一個下というか。

世界の野糞：やましい感じがちょっとあるんだよね。性的な…

付き人：リアルにもやましい感じはあるけれど・・・ネットはなんか。リアルだと許されませんか？

世界の野糞：卑屈なんだろうねやり方が。

で？：うーん。

おにぎり：ネットだと全然知らない人と知り合う感じだから。

世界の野糞：でもナンパもじゃない？キモッとは思わないよね。

ホヘー：むしろかっこいいというか。

小霜：そうか。メディアでいうとね。テレビと違って受動メディアじゃない。ネットって自分がその積極的に行くんだよね。積極メディアだから。まあさっき欲先行って言ったけれど、動いてるんだよね。きっと。偶然の出会いというものはなくて。なんかそこに対する軽蔑みたいなのはあるかな、もしかしたら。

で？：なるほど

付き人：でもナンパ、欲先行ですよ。

ホヘー：いや、、、ロマンチック・・・

一同：(笑)

付き人：でも一億人いるツイッターの中から見つかったっていう。

で? : でも探したから見つけたわけで。

小霜 : 前ね、TEDってあるじゃない。あれを見てたら、いかに自分は婚活ネットを活用したかみたいな話があって、フィラデルフィアに住んでる30過ぎくらいの女の人で、彼氏と別れて、で、自分のおばあちゃんが、そんなガツガツしてると失敗するんだと。出会いというのは向こうからやってくるんだみたいな事を言う。そんなものかと思って計算した。人口は〜・・・とか、ざっと割ると男はこれだけで、とか。それで、自分よりちょっと年上で、30代で、自分はユダヤ人だからユダヤ系のカルチャーを持っている人は何%かを計算していくと、それに適した人は街全体で35人で。偶然出会えるかと思ったら、無理だろうと。

一同 : (笑)

小霜 : それで、ネットの婚活サイトに登録してプロフィールを書いた。で、そのこういう人を求めますっていうのを書いたら応募が来て、デートしたんだけど、そしたら最低な奴らばかりだと。

一同 : (笑)

小霜 : なにも話も合わないし、お勘定で席立ったきり戻ってこなかったとかさ。

それでね、まあその人何が悪かったんだろうと考えて、プロフィールだ! と思って、すごいイケメンのふりをして男として登録して、どんな女が来るかみたいな事をやって、どんな女がモテるかを分析した。そうしたら、プロフィールに、FUNとか楽しいっていう要素があるといいとか、でもユダヤ人としてのカルチャーみたいなところはゆずらないで、とにかく完璧にした。それで条件を何条も書き出して相手に点数を付けて、自分の条件に会う人を何点以上だったらデートするとかって決めたわけよ。そしたら応募があったんだけど、基準を超えた人がぜんぜん来なかった。そのときにまた自分のおばあさんが、You're too picky!つまり選び過ぎだ! ということを書いて、でも、自分の決めた点数以上の人が来るまでは絶対にデートしないと決めていたら一人来た。そしてその人とデートしたらすごい話が合って、自分はヨルダンの遺跡に旅行したいと書いたら、相手もそうなんだと言って旅行して、そして結婚して今子供いますみたいな。で、どんどん選り好みしたほうがいいんだっていう。

一同 : へー(笑)

センター : そこまで意志があったらカッコいい(笑)

で? : カッコいい。

ホヘー : 無差別感がない。

ピロリ：無差別感ね。

小霜：無差別感がいけないのか。

ピロリ：手当たり次第みたいなの。

で？：たしかに誰でもよくないですね。

センター：だからナンパとはちがうのか。ナンパは一瞬だとしてもこの人いいかなとかがあるから。

安倍さん：フェイスブックの写真とその場で歩いてる人の情報量は10倍くらい違うと思っていて、動きとか表情とか声とか歩き方とか、何持ってるのかとか、そういう事を見てまだ言ってるなら無差別感って低いかな。あともう一つ言うと、ナンパだったら、君かわいいね！みたいなチャラ男みたいな・・チャラ男はかっこいいかなみたいな。一方フェイスブックとかだと暗いイメージがある・・・。

一同：(笑)

ピロリ：言ってること同じじゃないの(笑)

で？：でも世界さんの先輩とかは違うかもしれない。

世界の野糞：相当チャライよ(笑)

ホヘー：ナンパのときに友達から、出会いはナンパだったって聞いたときに女だったらチャライなって。容姿で判断するって、男側の話だけど選ばれる側の女の子に話を聞いたときはちょっと軽蔑した。

付き人：わかりますよ。

センター：意志の強さなんですかね。ネットだったらそんな意志強くなくてもできちゃうけど。

一同：・・・。

世界の野糞：僕のいとこの友人が30後半なんだけど最近結婚することになって、馴れ初めを言わない。友人にも言わない。どうやら結婚情報サイトで知り合ったらしいんだけど言わないし、わざわざ友達も問い詰めないらしいんですけど、やっぱりそういう空気があるよね。

センター：それってでもやっぱり、意志の強さを感じるから軽蔑はしない気が・・。

ホヘー：僕の実家結婚相談所ですよ。いろんな結婚情報サイトを3個くらい加入してて、今月も何人か結婚にたどり着いたんですけど、そんなに軽蔑しなくて。

センター：確かに自分がそこで知り合ったって言えるかっていうのが問題ですよ。自分がそうなったときに堂々と言えるかっていうと。

付き人：ツイッターとかで知り合った人は結婚式とかでは言い換えるみたいですけどね、共通の趣味を通じてとか。

センター：言い換えてる時点で……。そういうのって10年たったら変わるのかな。

小霜：結婚相談所で知り合ったっていうのは結婚式で言えるのかな。ちょっと言いにくい感じだよね。それに近いかもね。なんで言いにくいんだろうね。

センター：それは全然聞いている側からすれば健全ですよ。

一同：必死感……？

小霜：お見合いっていうのはどうかな。

おにぎり：式場でバイトしてるんですけど、スタッフミーティングで最初に情報共有するんですけど、お見合いとかそういう時は、出会いの話を聞かないようにとても注意するようにします。一切明かさないと。

世界の野糞：やっぱそこは一緒なんだ。

センター：一周まわって平気かも。逆にお見合いしちゃってる俺みたいな。

安倍さん：年齢にもよるかな。

で？：それが38でとかなら。

付き人：22でとくだったら親がめんどくさい人なのかなとか。

で？：式場が隠すっていうことはやっぱり自然な出会いが世間的には受けるっていう感じなんですかね。

センター：人類共通の欲望で、モテてるって思われたってありますが、それかなって。モテてるって思われなくなってしまう要因は言いたくないっていう。結婚相談所にわざわざ行くとかお見合いとか。そういうのを言いたくないみたいな。

おにぎり：世間が、出会ったときのシチュエーションに感動させるっていうのをやりすぎてるのがおかしくなってる原因なのかなって、本当はお互いが惚れた馴れ初めにスポットを当てればいいのに。出会いのきっかけはこうでした～みたいなものよりも。

一同：あー。

センター：就活とかでもドラマ性言わせたりしますよね。

ホヘー：そういう人は多いですね。

センター：そういった方が他人は動くから。

ホヘー：自分じゃどうしようもない、周りによってもたらされたドラマ？周りの環境・・自分が動いて作っていくものじゃなくて、周りが作ってくれた結果だと、ドラマチックみたいな気がするの？

小霜：クリエイティブは直感的に結論を決めて理屈を逆算するのがよいと思う。

直感を持てるよう、本当の自分の感覚を追い込む癖をつける。

ちょっとこの話は終わりがいい…そろそろ終了しようかと思うんだけど。

自分の感覚に素直になるってすごく大事だと思っていて、広告クリエイティブの発想って、よく、理屈を積み上げていって結論に至るって言うじゃない。でも最初に直感的に結論を決めちゃって、後付で理屈を詰めていくっていう、先に結論ありきがいいと思うんだよね、本当は。そうじゃないとつまらないものになりがちだからね。

こうじゃないかな？っていうのがあって、なんでこうなんだろうって理屈を逆算していくのがいいんだとおもう。ただ、思い込みだと繋がらないんだよね、素直にこれいいと思ったときに理屈は繋がるもので、だから生理的に感覚的に、気持ちいいと、そういうものが持てるかどうか大事だと思うんだ。でね、さっき軽蔑って言ったけれどさ、そこがどうかは分からないよね。尊敬の裏返しで軽蔑って思っているのかもしれないよね。ネットで知り合うやつらがいて、なんかすごいよな、って思っていることの裏返しかもしれない。その辺のことを疑いながら本当の自分の感覚を追い込んでいく癖をつけるのが大事だよな。

(終了)